

## DGC 国際文化交流部門 実施レポート



「世界の詩歌と書のコラボレーション 2018」の一回目は、9月13日師岡カリーマさんによる「読む、詠む、聴く、言葉の音楽~アラブの詩の世界」講演会を開催しました。耳と目からアラブの詩の素晴らしさに触れ、音楽、楽器、騎士道、文学、全てが興味深く、誰もが陶醉した時間を過ごしました。講演後、同窓生有志などにより、カーヌーンとアラブヴァイオリンの合奏が披露されました。(詳細は『津田塾たより』2018年 No.2 に掲載)

続いて、12月22日に津田塾大学同窓生である詩人の小池昌代さんによる二回目の参加型講演会が実施されました。二講演会はともに、オリンピック・パラリンピック組織委員会より「東京2020 応援プログラム」と認められ、認証マークを受けています。前者はさらに「2 years to go」を取得しています。以下、二回目参加型講演会のご報告です。

### ◆ 12月22日(木) 講師：小池昌代 (詩人、小説家 国大10回)

#### 「詩歌の翼—日本語と英語で読む、さまざまな詩」

講師の小池昌代さんは講演会の趣旨を以下のように語られます。

「詩をよむとき『わからなさ』を壊さず想像力によってその「謎」を育てていく必要があります。和歌・歌謡から現代の詩歌まで、英語の詩歌からは言語と日本語訳で、とっておきの数編を文字と音を楽しみながら読んでみましょう。」

○小池さんの講演には、和歌集3頁および講師作成の以下の資料が配布されました。

- 1) 百人一首より・二条院讃岐・鎌倉右大臣和歌・式子内親王の和歌
- 2) 日本の近代詩・宮沢賢治「報告」・萩原朔太郎「遺伝」・永瀬清子「あけがたにくる人よ」
- 3) 翻訳詩・イラン：ソフラブ・セペフリー「住所」・ギリシャ：ヤニス・リッツォス「井戸のまわりで」
- 4) 英語・日本語翻訳詩：エミリー・ディキンソン「わたしは『死』のために生まれなかったので」

○この講演会のために、2018年2月3日「世界の詩歌と書のコラボレーション 2018」

に講演くださった書道家の塚本虚齋氏が、小池さんの選ばれた萩原朔太郎の詩の一節や、エミリー・ディキンソンの詩を書にして展示くださいました。

また同4月6日の田代尚路先生はゲストとして参加、素晴らしい英詩朗読をしてくださいました。



○アンケートに見る感想をいくつかご紹介しましょう。

★永瀬清子の詩に出会えて良かった。イラン、ギリシャの不思議な詩も面白いと感じました。ディキンソンの映画を2年ほど前に観ましたが、今日の詩は、あの映画に出てきた詩より私の心に響きました。特別に今回用意され展示された朔太郎の詩の書は内容をよくとらえていて、心に訴える絵画のようです。

- ★曖昧なまま読み終えることになるので、詩を敬遠してきましたが、俳句を始め、韻文を勉強したいと思いました。和歌の解説がステキで、こうした講座があれば参加したいと思います。「言葉のきれめ」=沈黙が特徴で、わからないままでも読み続けることが良いのかと思います。
- ★目にする文字、耳にする言葉ではなく、行間にかくれているもの、音のうしろにかくれているものを味わい、詩は宇宙のよう。
- ★講師の小池さんは、時代も地域も異なる詩を温かく美しい声でたくさん朗読された。私は永瀬清子の「あけがたにくる人よ」やギリシャの「井戸のまわりで」など女性の生活感覚が強く出た詩に興味をもった。宮沢賢治の「報告」という虹についての2行詩を3グループに分かれ音読、輪唱のように響き合い、ただ、ただ楽しかった。
- ★「詩作はリズムだ」、「表現とは、自分でないものをどれだけ取り込むかが大事」など印象的な言葉が耳に残りました。

楽しい知的なひとときを津田の同窓生と一緒に共有したスウェーデンの税務局に30年も勤務、一時帰国されていた外部参加者（AFS経験、東京外語大出身）からは、「感激しました、そして、津田の方々のりんとした美しさ、とくに年配の方々の背筋のぴんと伸びた、すばらしい姿に感動しました」という感想が寄せられています。